



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

F A O (国際連合食糧農業機関) 日本事務所
2009年9月28日

LOJAPR09/20-No. 142

プレスリリース

2050 年: アフリカの食料の課題

見通しは明るく、資源は豊富であるが、政策は改善の必要がある

2009 年 9 月 28 日、ローマ-最近のサハラ以南アフリカにおける農業の良好な実績は、過去との決別とこの分野での見通しが改善していることを示唆している。しかし、新しい FAO の [討議資料](#)によれば、機運を維持するには「協調し、適確な政策行動」が必要である。

80%が小規模農家であるサハラ以南の農業部門は、数十年の停退の後、2008 年に人口増加率の 2%を大幅に上回る3.5%以上の成長を遂げた。

この成長は、多くの国における政策環境がより農業に適したものになったことと、小麦やコメなどの食料品の世界価格の上昇による。耐乾性のコメ品種ネリカ(NERICA: New Rice for Africa)のような技術の進歩も、この地域の生産向上に貢献した。

「サハラ以南アフリカにおける農業の潜在的可能性は、歓迎すべきニュースだ。農業はこの地域のほとんどの国において全体の成長の基幹で、貧困削減および食料安全保障にとって不可欠だ」と FAO のハフェズ・ガネム局長は述べた。

この討議資料は、「2050 年の世界をいかに養うか」についての戦略を話し合うために 2009 年 10 月 12-13 日にローマで開催される予定の [ハイレベル専門家会合](#)のために準備された。この資料では、この地域で増加する人口を養い、飢餓を撲滅するには、技術革新、市場とサービスの開発および天然資源のより良い管理などの分野において断固とした行動を求めている。

サハラ以南アフリカの人口は、2005 年の 7 億 7,000 万人から 2050 年には 15 億から 20 億人に増加すると予想されている。地方から都市への急激な人口移動と都市人口の増加にもかかわらず、農村部人口の絶対数も同時に増加するとみられる。

農業は、サハラ以南アフリカの農村開発、貧困・飢餓削減の原動力である。資料では、サハラ以南アフリカの農業成長は、中長期的な都市化と人口増加による国内およびアフリカ域内での食料品の需要に主導されるとみられるとしている。

ハイレベル会合には、開発途上国と先進国の学会、NGO および民間部門より第一線の専門家約 300 名が一堂に会する予定である。その目的は、2009 年 11 月 16-18 日にローマで開催される予定の食料安全保障に関する世界サミットの基盤作りである。

天然資源の管理

アフリカ地域の主要な利点の一つは、分布には非常にむらがあるが、水資源を含む天然資源が豊富にあることである。現在、世界的には20%以上であるのに対し、この地域の農作物の3%しかかんがい設備を使った生産が行われていない。

かんがいによって単収と生産は、大幅に増加するであろう。また、土地も十分に利用されていない。耕地の拡大は環境的に影響があることは認識しつつ、FAO の試算ではサハラ以南アフリカで更に耕地として利用可能な土地は7億ヘクタール以上ある。

特に、世界全体の小麦作付面積の二倍に相当するギニアサバンナ地域は、生産の大きな可能性を持っている。現在6億ヘクタールと推測される面積を持つギニアサバンナ地域の10%のみが耕地として利用されている。新たな耕地を開墾するにはインフラ整備、技術、環境への負の影響を避けるための保護措置への多額の投資が必要となる。

その他の課題

サハラ以南アフリカの農業を改善し、農業および農村の成長が貧困の削減と同一歩調で進むことを保証するために、政府、国際ドナー、民間セクターが克服しなければならない課題は他にも多くある。

この中には、いくつかの国での地域統合、ガバナンスおよび制度の不備、紛争とHIVエイズのような疾病、小規模農家と市場の連携、農村部での雇用機会の創出および若年層への適切な研修などの遅れが含まれる。

特に、小規模農家が国家、地域、世界市場へ参入するための能力向上プログラムや政策が必要である。

報告書は、小規模取引に対する取引コストと貧しい農家の作物の廃棄の削減、最小最適規模確保のための協同組合や他の形式の事業協会の創設の促進、食料の品質および安全性の管理なども勧めている。

また、アフリカの農民を洪水や干ばつおよび国際食料価格ショックから守る政策も必要である。飢餓と農村開発への取り組みの進展のためには、豊かな国から貧しい国への知識や技術の移転と同時に、農業研究への投資の増大もぜひとも必要である。

アフリカ農業の課題

- ・ アフリカの約2億1,800万人、全人口の約30%が慢性的な飢餓と栄養不足に苦しんでいると推定される。
- ・ アフリカの農場の80%が2ヘクタール未満の規模で3,300万戸ある。
- ・ 開発途上国全体では平均穀物の単収が1ヘクタール当たり約3トンあるのに対し、この地域では穀物の単収の伸びは鈍く、未だ1ヘクタール当たり約1.2トンにすぎない。
- ・ 肥料の消費は、1ヘクタールあたり中東と北アフリカでは73kg、東アジアと太平洋では190kgであったのに対し、2002年にサハラ以南アフリカでは、わずか13kgだった。
- ・ かんがい面積の比率は世界的には20%以上であるが、サハラ以南アフリカではわずか3%の土地しかかんがいされていない。
- ・ その他の開発途上国では内陸部に暮らす人口はわずか7.5%なのに対し、サハラ以南アフリカでは40%の人口が内陸国に暮らし、輸送コストが輸出品の価格の77%にまで達することがある。

農業研究開発への投資は非常に低く、1990年代には、実際、減少した。もしアフリカの農民が上記の課題を克服するために支援を受け、世界の経済危機が緩和すると同時に新しく改善された市場機会をとらえることができるのであれば、この大陸が農業分野で成長する大幅な潜在能力を持つということは広く意見の一致をみていることである。

英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/35770/icode/>